

日本労働年鑑 第50集 1980年版
The Labour Year Book of Japan 1980

第一部 労働者状態

VI 農家の状態と農民の生活

1 農家と農家人口

1 農家人口と農家数

農家人口と農家数

一九七八年一月一日現在の農家人口は、前年にくらべ一・四%減少し二二二四万人となった(第74表。資料は農林水産省統計情報部『農業調査結果報告書』一九七九年三月刊による。この農業調査は標本調査による推計値であるため、五年ごとに実施される「世界農林業センサス」の全数調査と一致しない点に留意する必要がある)。農家人口の年々の減少により、総人口にたいするその割合は一九・五%に低下した。また男女別農家人口の割合は、男子四九%(一〇八〇万人)、女子五一%(一一四四万人)で、わずかながら前年にくらべ男子の割合が増加した。

七八年一月一日現在の農家総数は四七九万戸で、減少率は前年より若干鈍化し一%減であった。この減少を地域別にみると、前年と同じく北海道と九州で減少率が高くそれぞれ一・八%、一・四%の減であり、減少率最低の地域は東北の〇・六%であった。なお、農家一戸当たりの平均世帯員は四・六人になった。

経営耕地規模別農家数

都府県全農家の経営耕地規模別農家数の推移を示したのが第75表である。一九七八年一月現在の農家の階層構成の変化の特徴をみるとつぎのとおりである。

(1)農家数の減少傾向のなかで増加を示したのは二～二・五ha層と三ha以上層で、それぞれ三〇〇〇戸、四〇〇〇戸の増加であった。この結果、二ha以上層農家の割合は〇・二ポイント増加し七・二%となった。また、三ha以上層の割合は二%を占めた。

(2)二・五～三ha層の農家は前年と同じ八万戸と変わらなかったが、二ha以下層の農家はいずれも減少した。このうち減少数のもっとも高い農家層は〇・五～一ha層で二万戸の減、ついで〇・五ha未満層が一・九万戸の減であった。また、減少率でも〇・五～一ha層が最高で一・四%、ついで一～一・五ha層の一・三%減であった。この結果、全農家数にたいする一ha以下層の割合は七〇%で、階層構成に大きな変化はみられなかった。

(3)農業地域別に経営耕地規模別階層構成をみると、二ha以上層の割合は東北の一九%が最高で、ついで沖縄と北陸の一・一%、九州の七%の順となっている。他方、一ha以下層の割合が八〇%を超える地域は近畿、中国、東海、四国であった。ちなみに東北は五〇%と最低であった。

最後に、同じ農業調査結果により北海道の経営耕地規模別農家構成の特徴をみておく。総農家数は前年にくらべ一・八%減少し一二万四〇〇〇戸となった。これは五ha以下層の減少によるもの

であるが、そのうちいちじるしい減少率を示したのは三～五ha層の七%、二～三ha層の五%であった。これに反し、五ha以上層はいずれも一～二%増加した。ちなみに北海道では五ha以下の零細層は四九%を占め、大規模層である一〇ha以上層は二五%を占めている。都府県と同じくここでも下層の零細農家の脱農化傾向はつづいている。

日本労働年鑑 第50集 1980年版

発行 1979年11月10日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 労働旬報社

2001年9月25日公開開始

■ ←前のページ 日本労働年鑑 1980年版(第50集)【目次】 次のページ→ ■
日本労働年鑑【総合案内】

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)
